



## 校長通信『道標(みちしるべ)』 第8号

令和2年 12月 22日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



### 令和2年度 第2学期の終業式に当たって「物事の本質を見つける力」

本年度は新型コロナウイルス感染症防止対策により、約2か月間の臨時休校から始まりました。そして、学校の新しい教育様式の実施、更には学習の遅れを取り戻すための7時間授業、夏季休業期間の縮減、就職採用選考期日の1か月間延期など、これまで経験ないことに対応してきました。このことについて、生徒の皆さんの努力と先生方の適切な指導により、大過（たいか：おおきな事件等）なく終業式を迎えられたことに感謝します。また、本年度の創立60周年記念各行事を滞（とどこお）りなく実施することができました。このことにより、生徒の皆さんの「心の成長」と本校の更なる発展に繋がったことにも感謝します。

さて、年末年始を迎えるに当たって、物事の本質を見つけるため、我が国の文化について考えてみましょう。我が国では古来、正月になると年神様を家に迎入れ、その年の無病息災（むびょうそくさい）を祈念する風習があります。元旦には神様が各家に訪れます。その場所は清らかな場所として生活の場とは区別するため、家の周りには縄を張りました。玄関には神様が訪れる目印として松が植えられました。現在は「しめ飾り」「門松」がその代わりとなります。また、神様を迎えるために家を清らかにします。そこで年末の大掃除となります。先人たちは年の区切をこのようにして気持ちを新たにす文化を継承してきました。このことを知っていれば、年末の大掃除をはじめ家庭の手伝いの励みとなり、正月の各行事も深く考えることができますね。

ものごとには、必ずそれを行う理由があります。その理由は先人たちが繋（つな）いできた歴史をひも解き、原点を見ることで明らかにできます。つまり、温故知新（おんこちしん：故きを温ねて新しきを知る）とはこのことです。本年度の創立60周年記念の各行事について、本校の歴史を理解し、60年前の原点を見つめることで、本校の現在と未来の歩むべき道が明らかとなりました。

皆さんが将来、社会で主体的に活躍するためにも、事跡（じせき：前任者が残した記録等）などを頼りに、原点に目を凝（こ）らし「本質を見つける力」をつけることが大切です。

どうか、様々なことに疑問をもち、文化や歴史を尊（とうと）び、「物事の本質を見つける力」と豊かな心を養い、充実した高校生活と心豊かな人生を送ってほしいと心から願います。

第2学期 終業式 校長式辞から

### 創立60周年記念 第60回「若商祭」

原点回帰（げんてんかいき）をめざした「若商祭」いかがでしたか。例年と比べ、規模は縮小しましたが、生徒の皆さんの輝く笑顔を見ることができました。クラスの仲間や部員と協力しながら、遅い時間まで頑張ったこと、当日の早朝からの準備、来客者の笑顔や励ましなど、この体験は人生の大切な宝物になるはずです。

#### 若商バザール部門

気持ち良い挨拶や笑顔・礼法など「生きた人の心」を大切にしてい、人工知能では難しいとされる「おもてなしの心」でお客さまをお迎えしました。

機械的で合理的な「WEB」や「オンラインショッピング」等では決して得られないことを全校生徒が学ぶことができました。この「人間らしい部分」を大切に Society5.0 の社会でも必要とされる人となることを期待します。

#### 文化発表部門

吹奏楽部・ダンス同好会・書道同好会・茶華道同好会・美術同好会・写真同好会などの皆さんが、日ごろの成果を発表しました。

それぞれの創作活動は、自然や美しいものに感動する心を培い日々の努力の積み重ねにより自己の向上の意欲を高め、文化や芸術に親しむ豊かな心を育みます。「若商祭」では、それを全校生徒が体感し「文化の心」を大切にす気持ちを育て、生徒一人ひとりが充実した豊かな人生になることをめざして実施しました。

